

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	福岡ベルエポック美容専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	美容師科	夜・通信	(新課程) 2010 時間 (旧課程) 2010 時間	160 時間	
	トピスタイリスト科	夜・通信	(新課程) 2430 時間 (旧課程) 2430 時間	240 時間	※
	トータルビューティ科	夜・通信	(新課程) 62 単位 (旧課程) 62 単位	6 単位	
文化・教養専門課程	ヘアメイク科	夜・通信	(新課程) 1710 時間 (旧課程) 1710 時間	160 時間	
	ブライダルヘアメイク科	夜・通信	(新課程) 1710 時間 (旧課程) 1710 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) トピスタイリスト科は令和4年度より在校生が在籍していない廃科予定学科であるため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡ベルエポック美容専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和3年6月 1日～ 令和6年5月 31日	地元の名士として学 校と地域の連携を図 る。
非常勤	株式会社役員	令和3年6月 1日～ 令和6年5月 31日	地元の名士として学 校と地域の連携を図 る。
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡ベルエポック美容専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画は、業界ニーズを把握した上で、卒業後3年後の到達目標(養成目的)と卒業時における到達目標(教育目標)を設定し、カリキュラム編成を行っている。年2回(5月,10月)開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にし、毎年見直しを図っている。学生には授業計画を学生便覧にまとめて公表する。ホームページ上でも公表する</p> <p>また、教科課程はもちろん、シラバスには学科・コース、必修選択の別、授業形態、年次、総時間(単位)、担当教員、開講区分、曜日・時間、授業の学習内容と心構え、到達目標、使用教科書・教材・参考書、授業外における学習、授業概要・回数、評価について、特記事項を記載している。</p> <p>【時期について】</p> <p>毎年、9月からカリキュラム構成検討を始めており、10月～11月にかけてカリキュラムプレゼンを行い授業科目の決定をしている。</p> <p>実際の授業シラバスの作成は12月～2月にかけて各授業の担当講師が作成し学科長が確定をする。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学校ホームページにて掲載</p> <p>https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>定期試験及び臨時試験(論文・レポートを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上を合格とする。単位・履修の認定については卒業進級判定会議を開催し、審査の上、判定をする。</p> <p>定期試験の方法は、筆記試験、口答試験、実技試験、論文あるいはレポートで行う。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>評価は、定期試験及び臨時試験(論文・レポートを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価します。評価は「A～F」で行ない、D以上を合格とする。</p> <p>評価分布の判断は「GPA」制度を活用し、実施する。</p> <p>点数 100～90点=A評価 (GP=4.0)</p> <p>点数 89～80点=B評価 (GP=3.0)</p> <p>点数 79～70点=C評価 (GP=2.0)</p> <p>点数 69～60点=D評価 (GP=1.0)</p> <p>点数 59点以下=F評価 (GP=0.0)</p> <p>※出席が8割(7割)に満たない場合はE評価(特別補講を実施)</p> <p>GPA=(当該科目の単位数×各授業で得たGPの合計) / (当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計)</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学校ホームページにて掲載 https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ディプロマポリシーにある建学の理念と4つの信頼や、各学科養成目的、教育目標に基づき、教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について、履修認定の要件として、美容師科においては該当教科科目の8割以上、トップスタイリスト科、トータルビューティ科、ヘアメイク科、国際ビューティビジネス科においては7割以上を出席していること、試験に合格している者に対して該当教科目の修了を認定する。</p> <p>学校長は前項の認定を行うために、学校長及び学校長が指名した者より構成される卒業進級判定会議を開催し、審査の上判定する。この場合、所定の教科科目及び所定の単位数または授業時間数を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められる場合、卒業または進級認定をしなければならない。</p> <p>1つの Semester (学期)ごとに全科目A～Dまでの評価を得た者は、必要単位数取得者となり、進級することができる。学年ごとに必修単位数を取得し、卒業時まで全科目を履修し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。不合格科目(E評価、F評価)を有する者は以下の通りとする。不合格科目が1科目でもある者は、原則留年となる。1年生は該当年次の3月末日、卒業年次生は卒業式の前日までに学費が完納されていない場合は、原則として進級、卒業を認めない。前項(1～4)について、トータルビューティ科は単位制のため、別に規定を定める。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学校ホームページにて掲載 https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	福岡ベルエポック美容専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
収支計算書又は損益計算書	https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
財産目録	https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
事業報告書	https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
監事による監査報告（書）	https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	美容師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,010 単位時間	510 単位時間	90 単位時間	1,410 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,010 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		165人	0人	8人	23人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>【様式第2号の3より再掲】シラバスに以下、事項記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 科目名（英） ② 学科・コース ③ 必修選択の別 ④ 授業形態 ⑤ 年次 ⑥ 総時間（単位） ⑦ 担当教員 ⑧ 開講区分、曜日・時間 ⑨ 授業の学習内容と心構え ⑩ 到達目標 ⑪ 使用教科書・教材・参考書 ⑫ 授業外における学習 ⑬ 授業概要・回数 ⑭ 評価について ⑮ 特記事項
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】定期試験及び臨時試験（論文・レポートを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上を合格とする。</p> <p>GPA 制度導入</p> <p>基礎分野、専門基礎分野、専門分野のうちの試験等による成績評価を行う授業科目であって、各学科において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPA の計算から除くものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 入学前に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、又は海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目（科目履修生として履修した授業科目を含む。） (2) 本校在学中に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、または海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目。 (3) 学則の規定による編入学等に伴い、本校の授業を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目。 (4) 前各号に掲げるもののほか、各校各学科が別に定める授業科目。 <p>※（なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校時期や遠隔授</p>

業の実施があったため、シラバスは5月の遠隔授業開始時と6月からの登校授業が再開されての2回配布した)
卒業・進級の認定基準
<p>【様式第2号の3より再掲】教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について、履修認定の要件として、美容師科においては該当教科科目の8割以上、トップスタイリスト科、トータルビューティ科、ヘアメイク科、ブライダルヘアメイク科においては7割以上を出席していること、試験に合格している者に対して該当教科目の修了を認定する。</p> <p>学校長は前項の認定を行うために、学校長及び学校長が指名した者より構成される卒業進級判定会議を開催し、審査の上判定する。この場合、所定の教科科目及び所定の単位数または授業時間数を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められる場合、卒業または進級認定をしなければならない。</p> <p>1つのセメスター（学期）ごとに全科目A～Dまでの評価を得た者は、必要単位数取得者となり、進級することができる。学年ごとに必修単位数を取得し、卒業時まで全科目を履修し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。不合格科目（E評価、F評価）を有する者は以下の通りとする。不合格科目が1科目でもある者は、原則留年となる。1年生は該当年次の3月末日、卒業年次生は卒業式の前日までに学費が完納されていない場合は、原則として進級、卒業を認めない。前項（1～4）について、トータルビューティ科は単位制のため、別に規定を定める。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制：有</p> <p>個別相談・指導等の対応、長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者を含めた面談による指導</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
98人 (100%)	0人 (0%)	89人 (90.8%)	9人 (9.2%)
（主な就職、業界等）美容室、ヘアメイク事務所、アイラッシュサロン、化粧品企業（美容部員）			
（就職指導内容）求人案内、履歴書作成支援、就職模擬面接、学内企業説明会の実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家資格・美容師免許（受験者98人 合格者83人）			
（備考）（任意記載事項） 令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
199 人	17 人	8.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、目的意識の低下、人間関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：担任・学科長・スクールカウンセラーによるカウンセリング 中退者支援：グループ姉妹校への再入学、自校内学科への転科の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	トップスタイリスト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,430 単位時間	495 単位時間	105 単位時間	1,830 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,430 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
0人		0人	0人	0人	0人	0人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>【様式第2号の3より再掲】シラバスに以下、事項記載</p> <p>① 科目名（英）</p> <p>② 学科・コース</p> <p>③ 必修選択の別</p> <p>④ 授業形態</p> <p>⑤ 年次</p> <p>⑥ 総時間（単位）</p> <p>⑦ 担当教員</p> <p>⑧ 開講区分、曜日・時間</p> <p>⑨ 授業の学習内容と心構え</p> <p>⑩ 到達目標</p> <p>⑪ 使用教科書・教材・参考書</p> <p>⑫ 授業外における学習</p> <p>⑬ 授業概要・回数</p> <p>⑭ 評価について</p> <p>⑮ 特記事項</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】定期試験及び臨時試験（論文・レポートを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上を合格とする。</p> <p>GPA 制度導入</p> <p>基礎分野、専門基礎分野、専門分野のうちの試験等による成績評価を行う授業科目であって、各学科において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとする。</p> <p>(1) 入学前に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、又は海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目（科目履修生として履修した授業科目を含む。）</p> <p>(2) 本校在学中に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、または海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目。</p> <p>(3) 学則の規定による編入学等に伴い、本校の授業を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目。</p> <p>(4) 前各号に掲げるもののほか、各校各学科が別に定める授業科目。</p> <p>※（なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校時期や遠隔授業の実施があったため、シラバスは5月の遠隔授業開始時と6月からの登校授業が再開されての2回配布した）</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>【様式第2号の3より再掲】教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について、履修認定の要件として、美容師科においては該当教科科目の8割以上、トップスタイリスト科、トータルビューティ科、ヘアメイク科、ブライダルヘアメイク科においては7割以上を出席していること、試験に合格している者に対して該当教科目の修了を認定する。</p> <p>学校長は前項の認定を行うために、学校長及び学校長が指名した者より構成される卒業進級判定会議を開催し、審査の上判定する。この場合、所定の教科科目及び所定の単位数または授業時間数を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められる場合、卒業または進級認定をしなければならない。</p> <p>1つのセメスター（学期）ごとに全科目A～Dまでの評価を得た者は、必要単位数取得者となり、進級することができる。学年ごとに必修単位数を取得し、卒業時まで全科目を履修し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。不合格科目（E評価、F評価）を有する者は以下の通りとする。不合格科目が1科目でもある者は、原則留年となる。1年生は該当年次の3月末日、卒業年次生は卒業式の前日までに学費が完納されていない場合は、原則として進級、卒業を認めない。前項（1～4）について、トータルビューティ科は単位制のため、別に規定を定める。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制：有</p> <p>個別相談・指導等の対応、長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者を含めた面談による指導</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (%)	13人 (92.9%)	1人 (7.1%)
（主な就職、業界等）美容室、ヘアメイク事務所、アイラッシュサロン			
（就職指導内容）求人案内、履歴書作成支援、就職模擬面接、学内企業説明会の実施			
（主な学修成果（資格・検定等））			
国家資格・美容師免許（受験者14人 合格者14人）			
※附帯教育の美容師通信課程併修により取得			
（備考）（任意記載事項）			
令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	1 人	6.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、目的意識の低下、人間関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：担任・学科長・スクールカウンセラーによるカウンセリング 中退者支援：グループ姉妹校への再入学、自校内学科への転科の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	トータルビューティ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	60 単位	39 単位	53 単位	7 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			196 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		103人	0人	5人	18人	23人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>【様式第2号の3より再掲】シラバスに以下、事項記載</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科目名 (英) ② 学科・コース ③ 必修選択の別 ④ 授業形態 ⑤ 年次 ⑥ 総時間 (単位) ⑦ 担当教員 ⑧ 開講区分、曜日・時間 ⑨ 授業の学習内容と心構え ⑩ 到達目標 ⑪ 使用教科書・教材・参考書 ⑫ 授業外における学習 ⑬ 授業概要・回数 ⑭ 評価について ⑮ 特記事項
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】定期試験及び臨時試験(論文・レポートを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上を合格とする。</p> <p>GPA 制度導入</p> <p>基礎分野、専門基礎分野、専門分野のうちの試験等による成績評価を行う授業科目であって、各学科において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 入学前に他の専門学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目、又は海外の職業学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目(科目履修生として履修した授業科目を含む。) (2) 本校在学中に他の専門学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目、または海外の職業学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目。 (3) 学則の規定による編入学等に伴い、本校の授業を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目。 (4) 前各号に掲げるもののほか、各校各学科が別に定める授業科目。 <p>※(なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校時期や遠隔授業の実施があったため、シラバスは5月の遠隔授業開始時と6月からの登校授業が再開されての2回配布した)</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>【様式第2号の3より再掲】教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について、履修認定の要件として、美容師科においては該当教科科目の8割以上、トップスタイリスト科、トータルビューティ科、ヘアメイク科、ブライダルヘアメイク科においては7割以上を出席していること、試験に合格している者に対して該当教科目の修了を認定する。</p> <p>学校長は前項の認定を行うために、学校長及び学校長が指名した者より構成される卒業進級判定会議を開催し、審査の上判定する。この場合、所定の教科科目及び所定の単位数または授業時間数を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められる場合、卒業または進級認定をしなければならない。</p> <p>1つのセメスター（学期）ごとに全科目A～Dまでの評価を得た者は、必要単位数取得者となり、進級することができる。学年ごとに必修単位数を取得し、卒業時まで全科目を履修し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。不合格科目（E評価、F評価）を有する者は以下の通りとする。不合格科目が1科目でもある者は、原則留年となる。1年生は該当年次の3月末日、卒業年次生は卒業式の前日までに学費が完納されていない場合は、原則として進級、卒業を認めない。前項（1～4）について、トータルビューティ科は単位制のため、別に規定を定める。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制：有</p> <p>個別相談・指導等の対応、長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者を含めた面談による指導</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
48人 (100%)	0人 (0%)	37人 (77.1%)	11人 (22.9%)
（主な就職、業界等）化粧品企業（美容部員）、ネイルサロン、エステティックサロン、アパレル			
（就職指導内容）求人案内、履歴書作成支援、就職模擬面接、学内企業説明会の実施			
（主な学修成果（資格・検定等））			
JENC ネイリスト技能検定試験2級（受験者2人合格者1人）			
JENC ネイリスト技能検定試験3級（受験者54人合格者34人）			
AEA 上級認定エステティシャン（受験者4人合格者4人）			
Ajesthe 認定上級エステティシャン（受験者4人合格者4人）			
（備考）（任意記載事項）			
令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114人	10人	8.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、目的意識の低下、人間関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：担任・学科長・スクールカウンセラーによるカウンセリング 中退者支援：グループ姉妹校への再入学、自校内学科への転科の実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養	文化・教養専門課程	ヘアメイク科	○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習
2年	昼	1,710 単位時間	210 単位時間	1,500 単位時間	
		単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	140人	0人	4人	22人	26人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>【様式第2号の3より再掲】シラバスに以下、事項記載</p> <p>① 科目名 (英)</p> <p>② 学科・コース</p> <p>③ 必修選択の別</p> <p>④ 授業形態</p> <p>⑤ 年次</p> <p>⑥ 総時間 (単位)</p> <p>⑦ 担当教員</p> <p>⑧ 開講区分、曜日・時間</p> <p>⑨ 授業の学習内容と心構え</p> <p>⑩ 到達目標</p> <p>⑪ 使用教科書・教材・参考書</p> <p>⑫ 授業外における学習</p> <p>⑬ 授業概要・回数</p> <p>⑭ 評価について</p> <p>⑮ 特記事項</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】定期試験及び臨時試験(論文・レポートを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上を合格とする。</p> <p>GPA 制度導入</p> <p>基礎分野、専門基礎分野、専門分野のうちの試験等による成績評価を行う授業科目であって、各学科において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとする。</p>

<p>(1) 入学前に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、又は海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目（科目履修生として履修した授業科目を含む。）</p> <p>(2) 本校在学中に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、または海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目。</p> <p>(3) 学則の規定による編入学等に伴い、本校の授業を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目。</p> <p>(4) 前各号に掲げるもののほか、各校各学科が別に定める授業科目。</p> <p>※（なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校時期や遠隔授業の実施があったため、シラバスは5月の遠隔授業開始時と6月からの登校授業が再開されての2回配布した）</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>【様式第2号の3より再掲】教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について、履修認定の要件として、美容師科においては該当教科科目の8割以上、トピスタイリスト科、トータルビューティ科、ヘアメイク科、ブライダルヘアメイク科においては7割以上を出席していること、試験に合格している者に対して該当教科目の修了を認定する。</p> <p>学校長は前項の認定を行うために、学校長及び学校長が指名した者より構成される卒業進級判定会議を開催し、審査の上判定する。この場合、所定の教科科目及び所定の単位数または授業時間数を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められる場合、卒業または進級認定をしなければならない。</p> <p>1つのセメスター（学期）ごとに全科目A～Dまでの評価を得た者は、必要単位数取得者となり、進級することができる。学年ごとに必修単位数を取得し、卒業時まで全科目を履修し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。不合格科目（E評価、F評価）を有する者は以下の通りとする。不合格科目が1科目でもある者は、原則留年となる。1年生は該当年次の3月末日、卒業年次生は卒業式の前日までに学費が完納されていない場合は、原則として進級、卒業を認めない。前項（1～4）について、トータルビューティ科は単位制のため、別に規定を定める。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制：有</p> <p>個別相談・指導等の対応、長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者を含めた面談による指導</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
53人 (100%)	7人 (13.2%)	25人 (47.2%)	21人 (39.6%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>ヘアメイク事務所、フォトスタジオ、美容室、セットサロン</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>求人案内、履歴書作成支援、就職模擬面接、学内企業説明会の実施</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>JESC認定メイク検定：受験者数 67人、合格者数： 66人</p>			

(備考) (任意記載事項)
令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
125人	6人	4.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、目的意識の低下、人間関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止: 担任・学科長・スクールカウンセラーによるカウンセリング 中退者支援: グループ姉妹校への再入学、自校内学科への転科の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ブライダルヘアメイク科 (ブライダルコーディネーター科)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,710 単位時間	単位時間 /単位	1,710 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		33人	0人	3人	13人	16人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>【様式第2号の3より再掲】シラバスに以下、事項記載</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科目名 (英) ② 学科・コース ③ 必修選択の別 ④ 授業形態 ⑤ 年次 ⑥ 総時間 (単位) ⑦ 担当教員 ⑧ 開講区分、曜日・時間 ⑨ 授業の学習内容と心構え ⑩ 到達目標 ⑪ 使用教科書・教材・参考書 ⑫ 授業外における学習 ⑬ 授業概要・回数 ⑭ 評価について ⑮ 特記事項
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】定期試験及び臨時試験(論文・レポートを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上を合格とする。</p> <p>GPA 制度導入</p> <p>基礎分野、専門基礎分野、専門分野のうちの試験等による成績評価を行う授業科目であって、各学科において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 入学前に他の専門学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目、又は海外の職業学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目(科目履修生として履修した授業科目を含む。) (2) 本校在学中に他の専門学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目、または海外の職業学校や大学(短期大学含む。)において履修した授業科目。 (3) 学則の規定による編入学等に伴い、本校の授業を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目。 (4) 前各号に掲げるもののほか、各校各学科が別に定める授業科目。 <p>※(なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校時期や遠隔授業の実施があったため、シラバスは5月の遠隔授業開始時と6月からの登校授業が</p>

再開されての2回配布した)
卒業・進級の認定基準
<p>【様式第2号の3より再掲】教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき教科目について、履修認定の要件として、美容師科においては該当教科科目の8割以上、トップスタイリスト科、トータルビューティ科、ヘアメイク科、ブライダルヘアメイク科においては7割以上を出席していること、試験に合格している者に対して該当教科目の修了を認定する。</p> <p>学校長は前項の認定を行うために、学校長及び学校長が指名した者より構成される卒業進級判定会議を開催し、審査の上判定する。この場合、所定の教科科目及び所定の単位数または授業時間数を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められる場合、卒業または進級認定をしなければならない。</p> <p>1つのセメスター（学期）ごとに全科目A～Dまでの評価を得た者は、必要単位数取得者となり、進級することができる。学年ごとに必修単位数を取得し、卒業時まで全科目を履修し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。不合格科目（E評価、F評価）を有する者は以下の通りとする。不合格科目が1科目でもある者は、原則留年となる。1年生は該当年次の3月末日、卒業年次生は卒業式の前日までに学費が完納されていない場合は、原則として進級、卒業を認めない。前項（1～4）について、トータルビューティ科は単位制のため、別に規定を定める。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制：有</p> <p>個別相談・指導等の対応、長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者を含めた面談による指導</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
（主な就職、業界等）美容室、ブライダルサロン、ドレスショップ、結婚式場			
（就職指導内容）求人案内、履歴書作成支援、就職模擬面接、校内企業説明会の実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） （国家検定）ブライダルコーディネーター技能検定：受験者数12人、合格者数：7人			
（備考）（任意記載事項） 令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	1 人	3.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、目的意識の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：担任・学科長・スクールカウンセラーによるカウンセリング 中退者支援：グループ姉妹校への再入学、自校内学科への転科の実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
美容師科	100,000 円	800,000 円	300,000 円	
トップスタイ リスト科	100,000 円	500,000 円	130,000 円	
トータルビュ ーティ科	100,000 円	780,000 円	300,000 円	
ヘアメイク科	100,000 円	780,000 円	300,000 円	
ブライダルヘ アメイク科	100,000 円	780,000 円	300,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://ww		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 自己点検・自己評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年1回以上委員会を開催する。評価委員会は、自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高め、学校運営の改善を目的としている。委員会は美容業界代表2名及び卒業生代表、地域代表、高等学校代表、保護者代表の6名で構成される。 委員会では、自己点検・自己評価に基づき、「教育理念・目標・育成人材」「学校運営」「教育活動」「学修成果」「学生支援」「教育環境」「学生の募集と受入れ」「財務」「法令等の順守」「社会貢献・地域貢献」について評価を頂き、常務理事をはじめ、学校長、運営本部長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努める。また、評価結果はホームページで公開し、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善にも努める。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
美容系協会 顧問	2022年4月1日～2023年3月31日	団体
美容系サロン 代表	2022年4月1日～2023年3月31日	卒業生
高等学校 校長	2022年4月1日～2023年3月31日	高校
自治協議会 委員長	2022年4月1日～2023年3月31日	地域
美容系サロン 代表取締役	2022年4月1日～2023年3月31日	企業
ヘアメイク科保護者	2022年4月1日～2023年3月31日	保護者
学校関係者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fbe.ac.jp/concept/jyouhou
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	福岡ベルエポック美容専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		102人	99人	104人
内 訳	第Ⅰ区分	70人	65人	
	第Ⅱ区分	20人	24人	
	第Ⅲ区分	12人	一人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				104人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	一人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	31人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	31人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。